



平成27年3月号  
発行:二輪草センター

# 二輪草だより

## センターの活動予定

- ◆4月上旬 女性医師在籍状況調査
- ◆4月下旬 二輪草プラン推進委員会議 二輪草だより4月号発行

## 「平成26年度 看護師と助産師のための復職支援研修」終了報告

看護職キャリア支援職場適応支援担当 菊地 美登里

平成27年3月9日(月)～3月13日(金)の日程で復職支援研修を行いました。今年度で5回目になります。受講者は看護師5名助産師3名の計8名で、助産師の応募が多く、臨床経験のブランクは7年～30年でした。旭川市内や近郊、遠くは道東から参加された方もいました。

研修は、講義の一部と病棟実習を「看護師コース」「助産師コース」に分けて行いました。研修1日目、最初に看護師の方は看護部長から「医療・看護の動向」について、助産師の方は副看護部長から「周産期医療について」の講義があり、その後、専任リスクマネージャー・感染対策師長からそれぞれ「医療安全」「感染対策」について、薬剤師からは「注射剤の基礎知識」についての講義がありました。

2日・3日目の看護技術演習では、1グループ2～3人の少人数とし、当院看護部の教育担当部門が作成したDVDやシミュレーションモデルを活用し実施しました。最初は緊張している様子でしたが、徐々に手技の感覚を取り戻し「思い出してきた」と、長いブランクを感じさせないほど積極的に行っていました。

4日・5日目の病棟実習では、担当看護師とともに行動し看護場面の体験や見学を行いました。「助産師コース」では、産科病棟に加え産科外来の実習を行い「母親学級」を見学しました。病棟実習を体験したこ



とで、「以前働いていた時のことが蘇ってきた」「看護の基本は変わらないと思った」と話され、白衣を着てベッドサイドに行く実習の意義は大きいと改めて感じました。

研修最後のフリートークでは、研修に応募することに勇気が必要だったが、研修を終え働きたい気持ちが強くなった。やはり「看護」が好きなのだ再確認できた。また、年を重ねたことで気づけることがあることがわかったと話されました。そのことに気づけたことで、すでにこの研修目的は達成したと思います。

最後に、吉田学長からの修了証書を上田看護部長から手渡され、受講者の皆さんは一步踏み出した晴れやかな表情になり、5日間でこんなに変われることに感動しました。今年度の研修を通して、未就業の看護職の方だけでなく、むしろキャリアアップを目指して参加された方が増えてきていると感じました。また、この研修を続けてほしいとの要望があり、今後も一人でも多くの方の復職を手助けしていきたいと考えています。



## 新副センター長御挨拶

本年3月より、間宮敬子先生の後任で副センター長に就任しました安孫子亜津子です。センターの一員として、旭川医科大学病院がますます働きやすい病院となるために皆さんのお手伝いをできるよう、そして二輪草センターの魅力あふれるセミナーや催しにたくさんの方々が参加していただけるよう、取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。



## 女性医師支援事業連絡協議会参加報告

臨床検査・輸血部 副部長 赤坂和美

2月27日開催の女性医師支援事業連絡協議会に出席させていただきましたので、協議会の内容をご報告申し上げます。医師不足や女性医師増加を背景に、支援事業の重要性が増しており、今回は参加者が増加し150名の参加であったとのことでした。H24年時点で医師全体に占める女性医師の割合は19.7%であり、医学部入学者に占める女性の割合は約3分の1となっております。誰でも働きやすい職場環境を整備することは必要であり、そのための相談窓口、短時間の正規雇用、医師には難しい側面もあるのでしょうか交代勤務、院内保育などの整備が進められている段階です。一方で公平感や管理者の理解の重要性も話題となっていました。日本の人口は減少していくものの、2025年に団塊の世代が75歳となるなど、医療の必要な人口はまだ多く、医療需要はまだ残るため、医師がやらなくてよい仕事を振り分け、適正配置などをやっていく必要があるとのことでした。

各ブロック別の会議開催や取り組みの報告がなされており、北海道・東北ブロックからは①相談窓口 ②育児サポート ③復職研修指導を三本柱として活動している旨、北海道医師会女性医師等支援相談窓口コーディネーターの足立柳理先生がご発表されました。

印象に残ったのは山本續子日本女医会会長の自助・公助・互助・共助の重要性についてのご発言でした。向こう三軒両隣のご協力を仰ぐ互助においても、自分の姿勢が重要であろうとおっしゃっていたと記憶しておりますし、自助について最初に述べられたことの重要性を感じます。いかに大変な、そして有意義な職業であるかという「使命感」を教育していく必要性についても言及されており、この「使命感」というキーワードは協議会の他の場面でも出ておりました。医育機関に勤務する者として、学生の皆様に「使命感」を感じていただけるよう、襟を正して日々業務に携わっていきたく思いました。

## 病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談【2月20日～3月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	10回	稼働回数	10回
病児・病後児保育室	依頼回数	4回	利用回数	4回
カウンセリング相談			利用回数	7回

\* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます

## 【お問い合わせ先】

旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)  
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1  
TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249  
E-mail: [nirinsou@asahikawa-med.ac.jp](mailto:nirinsou@asahikawa-med.ac.jp) 開設時間8時30分～17時15分



二輪草だより掲載記事は、ホームページよりご覧いただけます。  
<http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>